

同志社歴史かるた

講演	北出 至〔きたで・いたる〕
講師紹介	同志社校友会大阪支部産官学部会前会長 株式会社ジョスラン代表取締役同志社大学名誉教授

只今、ご紹介いただきました北出です。本日はこのような場で皆様にお話しできることを大変光栄に存じます。

私の略歴について越川先生がご説明くださいましたが、現在、仕事の傍ら同志社校友会大阪支部産官学部会（Liaison Clover Club、略称ＬＣＣ）でボランティア活動を行っております。ＬＣＣは約10年前、同志社大学の産官学連携の取組を卒業生の立場から支援するために設けられました。

その役割の一つが同志社ビジネススクール（ＤＢＳ）の優秀な学生募集への協力です。同志社ＯＢが経営する企業を中心に、後継者育成や若手経営者の勉強には各分野に精通した教授陣が揃うＤＢＳが最適と説明し、また、ＤＢＳの優秀な先生方を企業や団体に知っていただくよう努めました。

一方、ＬＣＣには「新島塾」があり、定例会では大学から講師をお招きしたり、また、「同志社歴史かるた」などを作成、会員の皆様とともに同志社の歴史への興味を高めて参りました。本日は、「同志社歴史かるた」の作成過程や特筆すべき人物などに関し、感動したことや疑問に感じた点などを交えて一卒業生の立場でお伝えしたいと思います。

上毛かるた

新島襄の父方の故郷、群馬県に「上毛かるた」があります。浦野匡彦というのちの二松学舎大学学長が、終戦後アメリカＧＨＱの指令で地理・歴史の学校教育が停止されていたことを憂い、群馬の歴史や文化を子どもたちに、ぜひ伝えたいと提唱したものです。

この話題が「同志社歴史かるた」作成のキッカケとなりました。広い群馬の地理的特色、昔から伝わる文化など他の地方にない群馬県の歴史を「かるた」で教えるこの手法を、ＬＣＣの会員の皆様が「同志社の歴史を身近に感じるツールに」と思ったのです。

ただ、上毛かるたの「平和の使徒新島襄」のように「七五調リズム」もありますが、俳句の「五七五調」の方がリズムカルで憶えやすいと考えました。

同志社歴史かるた

同志社歴史かるたは、「今出川歴史を刻むキャンパスに」から始まります。クラーク記念館など明治、大正、昭和初期の学舎が平成の建築・良心館と美しく調和して、まさに歴史を刻む同志社誕生の地・今出川キャンパスを、いろはの「い」に選びました。

次に「ろ」「ロビンソン・クルーソー物語夢誘う」、「は」「ハリスより理化学館の基金を受く」と続きます。若き新島の夢を誘った書籍『ロビンソン・クルーソー物語』や、米国コネティカット州のＪ・Ｎ・ハリスの厚意により建ったハリス理化学館を題材に使いました。また、「へ」「弁慶号襄の愛犬傍らに」、「と」「同志社と山本覚馬が命名す」と、濁音も利用します。

欠かせないのは、同志社教育の真髄、良心教育の由来となる「良心碑」です。「り」「良心碑合わせて九基建てられし」と詠み、説明文と共にボストン郊外のフィリップス・アカデミー（新島の母校）入口にある一基の写真をかるたに添えました。

あまり知られていませんが、「わ」「ワシントン大聖堂に新島像」も忘れてはなりません。大聖堂飾り窓には世界から選ばれた93人の像があり、新島は極東地域から選ばれた3人のうちの1人です。しかし、何故か関連資料がほとんどなく、やっと見つけたのが『同志社時報』91号と100号の数ページのみです。私が思うほどの話題ではないのでしょうか。

そもそも「いろはかるた」の原点は平安時代末期に創られた語文（ずもん）と呼ばれる「うた」です。「涅槃經」の「諸行無常」の一節を、「色は匂へど散りぬるを」と続く文言を七五調で4回繰り返し、「悟りの世界の儂い夢を見ることのない安らかな心境」を「今様」という形式で、すべての仮名を1回ずつ重複することなく意味深く詠まれています。平安時代末期といえ八百何十年も前のこと、昔の人の創造力の凄さは奇跡と言えるでしょう。

その「いろはかるた」に新島の足跡や同志社の歴史の一端を纏めるのが今回の試みですが、それに相応しい言葉、たとえば、新島青年の興味を惹きつけた書籍名『聯邦志略』（れんぱうしりやく）や今も同志社に受け継がれている「偶像不羈」という言葉などを揃えるのが理想です。

「れ」「聯邦志略アメリカ大陸地歴の書」、「て」「偶像不羈徳富蘇峰もその一人」。

「偶像不羈」とは、才気がすぐれ独立心が旺盛で常軌では律しがたいことを意味します。新島は徳富蘇峰のような人物をスケールの大きな偶像不羈な学生として非常に丁寧に扱ったそうです。第六代社長下村孝太郎も、いや、新島自身がその一人ではないか、と評する向きもあります。

その新島は1890年1月23日、神奈川県大磯町の百足屋（むかでや）旅館の一室で、46年11カ月の短い人生を閉じます。「お」「大磯で波乱に充ちた旅終える」。

歴史かるたの最後の「す」は「過ぎ去りし日々かえりみるひな祭り」と、在りし日の新島襄を雛壇の前で懐かしむ八重の姿で締めくくりました。

ところで同志社は、英学校を開校以来、今年で141年目に入りますが、その長い歴史を僅か44枚のかるたで表現するには程遠く、また、語呂合わせにも無理が出ます。適当なキーワードが見当たらず、また、逆に重複のため、割愛せざるを得ないケースも生じます。

たとえば、「わ」には、先ほどのワシントン大聖堂の新島像以外にも皆様よくご存知の「ワイルド・ローヴァー号」があります。新島が上海からボストンまで1年かけて航海したテイラー船長の船の名で、いかにもかるた向けの好材料ですが、残念ながら重複のため割愛しました。そこで考えたのがアルファベット26枚での補足です。

同志社歴史ABCカード

「かるた」で扱わなかった「Fowler Chapel」（米国実業家ファウラーの多額の寄付で建てられた栄光館の1階講堂をファウラー・チャペルと名付ける）や「Phillips Academy」（新島が1865（慶応元）年10月にフィリップス・アカデミー校・英語科に入学）をABCの「F」「P」で、また、「W」で「Wild Rover」（テイラー船長のワイルド・ローヴァー号）も作成できました。

なお、毎年『同志社大学データブック』という小冊子が英語・日本語のバイリンガルで発行されています。読まれる方は少ないと思いますが、小冊子冒頭の同志社の原点、「Grand Plan of 200 Years（志の実現には200年）」や「Liberalism and Conscience education（『自由』と『良心』をベースに）」をそのまま「G」と「L」で紹介しています。

以上のカードを「同志社歴史ABCカード」と名付け、最初の「A」は、当然「Amherst College」（アモスト大学）、ジョンソン・チャペルの新島の肖像画です。

新島の表情がやや暗いのが気になりますが、第二次世界大戦中もアメリカの敵国日本の留学生新島という観念はなく、肖像画は外されることなく掛け続けられます。この点を私は疑問に思いましたが、大学側の判断基準は、在学中にその人物が「いかにアモスト大学に貢献したか」が決め手のようです。

新島と対照の位置に掛けられていたアメリカ第30代大統領クーリッジ（アモスト大学卒業生）の肖像画が、最近、当大学最初の女性教授に掛け替えられたそうです。大統領という社会的地位よりその女性教授の貢献度の方が勝る、とアモスト大学が認めたのでしょう。

同志社歴史人物カード

さて、歴史かるた44枚、ABCカード26枚とその日本語補足カード26枚を曲がりなりにも作成しましたが、さらに広く同志社の歴史を語れるよう「同志社歴史人物カード」の作成に取り組みました。

お手もとに配布しました「同志社歴史人物一覧表」は、同志社ゆかりのクラーク3人〔札幌農学校のW.S.Clark、クラーク神学館（現・クラーク記念館）を寄付したB.W.Clark、アメリカン・ボード主事のN.G.Clark〕を含め120人の氏名が並んでいます。カードには人物写真と簡単な説明文を添え、マイクロソフト・パワーポイントで作りました。本日はその中から何人かを選んでお話をいたします。

松本五平

まず、松本五平に関するエピソードです。私のかつての上司、ミスター・デービスに、英文カードについて時折アドバイスを受けていました。一昨年、私がシアトルに彼を訪ねた際、五平に少し触れ、次のように話しました。

「松本五平は学校の用務員さんで、背が極端に低く生徒たちから『五平、五平』とよくからかわれたそうです。一方、新島は五平に常に優しく接したため、五平は新島に対する尊敬の念を込め『あの世でも先生のお世話をさせて下さい』と八重に懇願、八重は約束を守り、現在、五平は新島とともに同志社墓地で静かに眠っています」と。

これを聞いたデービスは、自分の母校の創始者について語り始めたのです。彼の母校は、テキサス州ヒューストンにある少数精鋭主義の密度の高い教育を行い南のハーバードと呼ばれ

ているRice Universityです。

創始者ウィリアム・マーシュ・ライスは、いつも募金集めに苦労した新島と違い大変財力豊かな人物で、このライスにも五平のような世話人がいました。或る日、ライスの留守中、この世話人がライスの金庫に手を付け、激怒したライスは怒り狂って体罰を与えたのです。事はこれで収まらず、逆恨みを買ったライスはニューヨークで殺害されたそうです。

海を隔てていますが、ほぼ同じ時代の私立大学創始者のライスと新島、二人を評してデービスから「人間味溢れた校祖が創設した同志社で、君が学ぶことができ大変幸運だったね」と言われ、私は意外なところから母校への賞讃を受けたのです。デービスはインターネットを通じ、時折同志社や新島について読んでいたようです。

重見周吉、安部磯雄、小野英二郎

話が飛躍しますが海を隔てたと言え、**「同志社英学校第一回卒業生の留学状況」**に驚きます。太田雅夫先生の著書『新島襄とその周辺』（青山社2007年）によれば、「中退の小野英二郎を含め7名の留学というのは、徴兵令改正問題があったとはいえ驚異的」と書かれています。1884（明治17）年、132年も前にこれだけの大先輩たちが海外に目を向けていたことに、私は感銘を受けました。その中の重見周吉、安部磯雄、小野英二郎について少しお話しします。

或る日、私は突然、重見周吉の子孫にあたる重見悟という神戸在住の方からメールをいただきました。重見周吉はエール大学の学費捻出のため、郷里今治を背景に『A Japanese Boy, by himself』という本を出版しました。悟氏は「英語で本を書いた最初の日本人として重見周吉をぜひ、世に知らしめてください」と書かれていました。

重見は帰国後、一時は東京慈恵医院医学校（現在の東京慈恵医科大学）に勤めていましたが、英語力を試すべく学習院英語教師に応募します。最終審査に残った重見と夏目漱石の中から重見が選ばれ、後年「漱石の運命を変えた男」と言われます。重見にとっては誠に迷惑なレツテルだったでしょう。

また、夏目漱石と同志社にはもう一つの接点があります。弘中又一です。

学習院のテストに失敗した漱石は四国松山に移り、同志社を卒業した弘中と松山中学で席を並べて、毎日二人はよく笑いよくしゃべったそうです。その日常生活を通じて明治の名作『坊ちゃん』が生まれ、弘中はそのモデルと言われます。晩年、京都に戻った弘中は新島の月の命日には必ず墓参し、それを死ぬまで続けたそうです。なかなかできないことです。

ところで、今、日本ではプロ野球が盛んですが、12球団の中で最も歴史の古い読売巨人軍が生まれたのは、1934年です。それより約30年も前、1905年に安部磯雄が、自分の創設した早稲田大学野球部を米国人連れて行きます。日本野球史上初の海外遠征です。安部はもち帰ったアメリカの野球技術を早稲田大学野球部だけのものとせず、日本全国に伝え、日本の野球発展の基礎を創りました。「日本野球の父」と呼ばれる所以です。

安部の経歴を見ますと野球に関することが多いのですが、安部は同志社が生んだ数少ない政治家なのです。最大の業績は、キリスト教的人道主義の立場から日本社会主義運動のパイオニア的役割を果たしたことです。ロシアの文豪トルストイとも交流があったと聞きます。安部は同志社時代に新島から最も愛され、薫陶を受けた教え子の一人です。

新島を評して安部は「先生は威あって猛（たけ）からず、何人をも吸引せねば止まぬという愛嬌が溢れていた」と述べています。「威あって猛からず」とは、「高い地位にあってもおごらず、威厳がありながらも穏和で荒々しくなく、人間的な温かみがある人物を指す」とあります。先ほどのデービスは新島のこの部分を評価したのでしょう。

そして、小野英二郎。厳密に言えば小野は同志社英学校中退ですが、法学部の前身、同志社政法学校の教頭から日本銀行を経て日本興業銀行総裁になった人物です。その小野の孫がなんと、あの有名なイギリスのロックバンド、ビートルズのジョン・レノンの妻オノ・ヨーコです。

日本銀行第十三代総裁深井英五

なお、同志社からは過去3人の銀行総裁が出ています。小野英二郎に加え、新島の右腕と言われた市原盛宏、横浜市長から新設の朝鮮銀行初代総裁となった人物です。そして、あともう1人の総裁は、日本銀行第十三代総裁の深井英五です。

深井は学生の頃、真理の厳しさを寒梅にたとえて詠った有名な漢詩「真理は寒梅のごとし、敢えて風雪を侵して開く」を新島から贈られています。

色紙に書かれた新島の字は見事です。父である新島民治が祐筆という書記のような職業で達筆であったため、新島もその才能を受け継いだのでしょう。

深井英五は同志社卒業直後、徳富蘇峰の世話になりますが、蘇峰は深井の将来を考え、時の大蔵大臣松方正義に深井を紹介します。この出会いが深井を日銀第十三代総裁にまで引き上げるのです。

晩年、深井は自身の生涯を決定づけた三つの要素として、新島の温情による同志社教育、徳富蘇峰の指導、松方正義の知遇を挙げています。

深井の能力、人物評価はどの記述を見ても、賞讃のオンパレードです。たとえば、『歴代日本銀行総裁論—日本金融政策史の研究—』（ダイヤモンド社1957年）を書いた吉野俊彦氏によれば、「その知性の高さ深さという点からみれば、なんといっても、歴代の日本銀行総裁中の第一人者」と絶賛しています。

深井英五以外にも、同志社卒業後、経済界で活躍する方たちが多数見られますが、政治家は、慶応や早稲田に比べて安部磯雄などごく少数で、ましてや総理大臣経験者は皆無です。

土倉庄三郎一族

しかし、それに近づいた人がおります。内田康哉です。内田は明治・大正・昭和の三代にわたり外務大臣を歴任、外務大臣としての在任総期間7年5カ月は、最長記録として現在も破られていません。『タイム』誌の表紙を飾ったこともあり、当時は最も脚光を浴びた政治家の一人でした。

内田は熊本出身ながら、あの熊本バンドの連中に何故か馴染めず、同志社英学校を中退します。その後、東京帝国大学法学部を卒業し外務省に入り、外務大臣時代には総理大臣代理を2度務めます。「総理の座に近づいた人」と言ったのはこのことです。

原敬総理が東京駅で暗殺された時、加藤友三郎総理が関東大震災直前に急死した時の、いずれも1920年代初期の緊急時です。しかし、何故か後世の内田に対する評価は芳しくなく、むしろ妻の政子について胸のすくようなエピソードが印象的です。

それをお話する前に土倉庄三郎に触れなければなりません。大和の山林王と言われた大富豪です。新島が妻八重の老後について土倉に相談するほど、新島が信頼を寄せた人物です。その土倉の次女政子の夫が内田です。そして長女富子の結婚相手が原六郎、同志社に多大の支援を続けた財界の巨頭で、新島のアメリカ留学中の知人です。

表は、1888年7月19日に大隈重信邸で開催された新島の大学設立支援の会合での寄付金の一覧です。原六郎と渋沢栄一が6000円の金額となっています。これは当時の東京日日新聞の発表です。

一口に6000円と言いますが、今のいくら位と想像されますか。明治20年前後の1円は、およそ二万数千円と言われます。したがって、渋沢栄一や原六郎は、時価一億数千万円を寄付したことになります。この会合の支援合計金額は3万5000円ですから、新島は一晚で、なんと八億数千万円を皆様からご協力いただいたことになります。新島の人徳でしょう。

話が逸れかけましたが、土倉の次女政子のエピソードとは、1945年9月、横須賀線の車中にいた時のことです。米軍水兵数人が、若い日本人女性にしつこくするシーンに乗客は見ても見ぬふりをしていたその時、突然、75歳の白髪の政子が立ち上がり、杖にすがって水兵たちに近づき“Behave yourselves!”と、凛とした声で一喝、一瞬驚いた水兵たちはさきまり悪そうに女性から離れたそうです。

私は最初、このストーリーを読んだ時、まさに溜飲が下がる思いがした記憶があります。

Behave yourselfとは、母親が悪戯っ子をなだめる言葉で、かつての外交官夫人として流暢な英語を話す政子の毅然とした振る舞いで車内に安堵の空気が流れたとのこと。なお、政子は、同志社女学校で生涯にわたり女子高等教育に全精力を捧げたフローレンス・デントン女史の薫陶を受けています。

フローレンス・デントンと井深八重

そのフローレンス・デントン女史は、31歳で来日したのち、59年間、90年の全生涯を同志社の女子教育に注ぎ、死してなお、愛する同志社の近くに埋めてもらいたいとの希望で、今、相国寺に眠っています。

相国寺の境内では朝は読経、夕べには同志社からの讃美歌が流れることも珍しくありません。現在、世界各地では宗教の違いによる骨肉の争いが絶えませんが、宗派の壁を越え、異教徒の墓を境内に受け入れた相国寺のこの懐の深さを世界の宗教家は見習ってほしいものです。

井深八重も、同志社女学校でデントン女史の指導を受けた一人です。ご存知の方も多いと思いますが、私はこの人に関する記述を読むたびに、その数奇な運命に胸が熱くなるのです。22歳、人生これからという矢先にハンセン病と診断され、突然、隔離入院を余儀なくされます。気が狂わんばかりの心境だったでしょう。しかもその後、それが誤診だったとは、なんとこの神のいたずらでしょうか。でも、八重はそのまま病院に留まり、社会から見放されたハンセン病患者の看護と救済に生涯を捧げるのです。

八重の人となりを示すエピソードがあります。1977年に、ハンセン病患者の福祉向上に尽くしたとして八重は、朝日社会福祉賞を受賞します。その授賞式挨拶の中で、ハンセン病に対する偏見の根強い時代から患者と共に生きた自らの苦労の歳月については一切触れず、むしろ、世に知られることなく献身の一生を終えた人たちの徳のみを讃える八重のその謙虚さに、列席者たちは一様に胸を打たれたそうです。

また、同志社大学より名誉博士の称号が授与された時、「私がこの道ひとすじに進み得たことは、レゼー院長の偉大な人格とその指導に依るものですが、これを受け入れる基盤となったのは、母校の新島先生の息吹のかかるキリスト教的雰囲気の中で学び得たことに依るものと感謝いたします」と表明しています。

「一粒の麦、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん。もし死なば、多くの果を結ぶべし」。八重が「座右の銘」として生涯にわたり実践した聖書からの言葉です。

同志社歴代社長、総長

さて、私は同志社の歴史を時系列に、しかも端的に把握しようとすれば、歴代社長、総長一人ひとりの経歴と同志社における実績を追っていくのが一つの近道と思います。なお、「社長」という呼称は七代目原田助社長時代の中途から「総長」に変わります。

本日は詳しくお話しする時間はございませんが、新島亡き後の社長、総長人事は波乱の連続です。最初の波乱は新島の死後、早速、起こります。それまで後継者は金森通倫で衆目の一致するところでした。

この絵は徳富蘇峰の知人、久保田米匱（べいせん）という画家が描いた「新島襄先生臨終図」ですが、この場で蘇峰により聴取された新島の遺言に金森の資質に懸念を示す文言が含まれていて、金森後継の芽がなくなります。

臨時的に新島の後を山本覚馬が社長代理として埋め、２年後に小崎弘道にバトンタッチされますが、その後も難しい人事局面が度々ありました。

下の図は歴代社長・総長の一覧ですが、特に原田助総長辞任後、第八代海老名総長誕生までが、かなりの難産でした。有力な方たちの名前が多く候補として挙がりました。安部磯雄、浮田和民、小野英二郎、横井時雄（既に三代目を一度務めている）、そして徳富蘇峰まで、異色は新渡戸稲造です。

幻の八代目総長・新渡戸稲造

新渡戸本人が、総長候補の噂を承知していたかどうか分かりませんが、実現していれば、同志社にとり素晴らしい人事だったと思います。私も「幻の総長」という記述を見て、早速かるたの「ま」に「幻の八代総長新渡戸稲造」と採り入れました。

かつて新島自身も、学校教育を通して自分の未来への夢を託し得る人物の一人として新渡戸を見ていたのではないかと思います。

事実、１８８５年に新島は、新渡戸の留学先米国ボルティモアのジョンズ・ホプキンス大学に、新渡戸が卒業したら、同志社に迎えたい意向を伝えるため、わざわざ足を運んでいるのです。

結果的に新渡戸は辞退しますが、この時、同志社英学校で学び日本最初の心理学者になる元良勇次郎も在学していたため、元良を差し置いて自分に声がかかったという感激と遠慮が新渡戸にあったのではと思われます。

しかし、以降、違った形で同志社と新渡戸は長く繋がりをもちます。

新渡戸稲造については皆様よくご存知で、今更説明は要りませんが、本日のスピリット・ウィークにあたり、新島精神に沿う最も相応しい人物を、本日皆様のお手もとに配布しました「同志社歴史人物カード一覧表」から選ぶとすれば、やはり新渡戸稲造だったのです。理由は、「良心教育」を目指した新島と『武士道』を書いた新渡戸に「徳育」という言葉で集約される多くの共通点があると考えたからです。

新渡戸の著書『武士道』は、単に昔の武士の規範や倫理だけを述べたのではなく、本の副題「日本人の魂」（『The Soul of Japan』）からも察せられるように、日本人の道徳意識や思考方法、つまり、日本の文化をさまざまな事例を挙げて、今の時代にも充分通ずるよう書かれています。

アメリカの評論家、ジュリアン・ホーソーンは、「新渡戸の英語は、まことに自然で読みやすくて確である。これが外国人の文章だとは誰も思えない。しかも、西洋人のよく知らない東洋の知識に詳しく、今まで外国人の観察者が書いたどの著述に比べても、日本の精神をよく伝えているものはない」と述べています。

また、新渡戸稲造の、多方面での活躍の中で特筆すべきは、国際連合の前身・国際連盟での国際知的協力委員会でのリーダーシップです。

アインシュタイン、キュリー夫人、ベルクソンなど、世界の錚々たるメンバーの中央に新渡戸稲造が座っている写真を見る度に、私は日本人として実に誇らしく思うのです。出身国も専門分野も全く異なる12人の著名な学者を集めた国際知的協力委員会は、今のユネスコです。

したがって、ユネスコの生みの親の一人が新渡戸と言えます。そのような人物が、「同志社総長に就任していたら」と想像するだけでも楽しいではありませんか。

新渡戸は、かつて同志社の理事でもあり、名目だけに止まらず何度も来校しています。最後は１９３３年５月31日、新築された栄光館で「日本の将来と同志社の使命」と題したスピーチを行っています。自分が活躍した国際連盟を日本が脱退した直後であっただけに、複雑な心境であったと推察されますが、世界平和を願い、欧米、特にアメリカの考えや文化に満ちた学園、同志社で学ぶ学生の「良心」に訴えたのです。

図書館にある資料は、英文で『Japan's future and the Mission of the Doshisha』しか見当たりませんが、今の社会情勢に合致するところもあり、胸に響き新鮮です。できれば、スピリット・ウィークの機会に目を通されることをお勧めして私の話を終えます。ご清聴有難うございました。

2016年6月1日同志社スピリット・ウィーク春学期

今出川校地「講演」記録

※図の表示はホームページでは省略します。